

2021-2022 年シーズンのインフルエンザワクチンについて

○今年はインフルエンザワクチンを受けたほうがよいの？

昨シーズンのインフルエンザの規模は、例年に比べ明らかに小さいものでした。

社会全体で新型コロナ対策が続けられていることから、今シーズンもインフルエンザは流行しない可能性はあります。

しかし一方で、昨シーズンに流行しなかった分、インフルエンザに対する感受性が高まっている可能性も危惧されています。

これらのことを踏まえた上で、2021-22 シーズンのインフルエンザワクチン接種について、日本ワクチン学会は「生後 6 か月以上のすべての人に推奨」しています。

○今年のワクチンは不足しているの？

厚生労働省の通知によると、昨年度は 10 月末には供給量全体の 90%程度のワクチンが出荷済みでした。しかし、今年度はワクチンの製造資材の不足などにより 10 月末の時点では 65%程度にとどまっています。ただし、ペースは遅いながらも 12 月中旬頃まで継続的にワクチンが供給される見込みとなっています。(資料 2)

そもそも昨年は供給量が例外的に多かった年でした。今年の供給量は、最終的には 昨年以外の過去 5 年間と変わらない見込みのようです。(資料 1)

11 月はじめまでは、当院でもインフルエンザワクチンの不足が想定されますが、その後も、ワクチンが継続的に供給される見込みではありますので、一旦予約受付を中止しても、ワクチンが確保できれば予約を再開する予定です。

HP などでご案内しますので、情報の確認をお願いします。

○ワクチンを受ける際の注意点は？

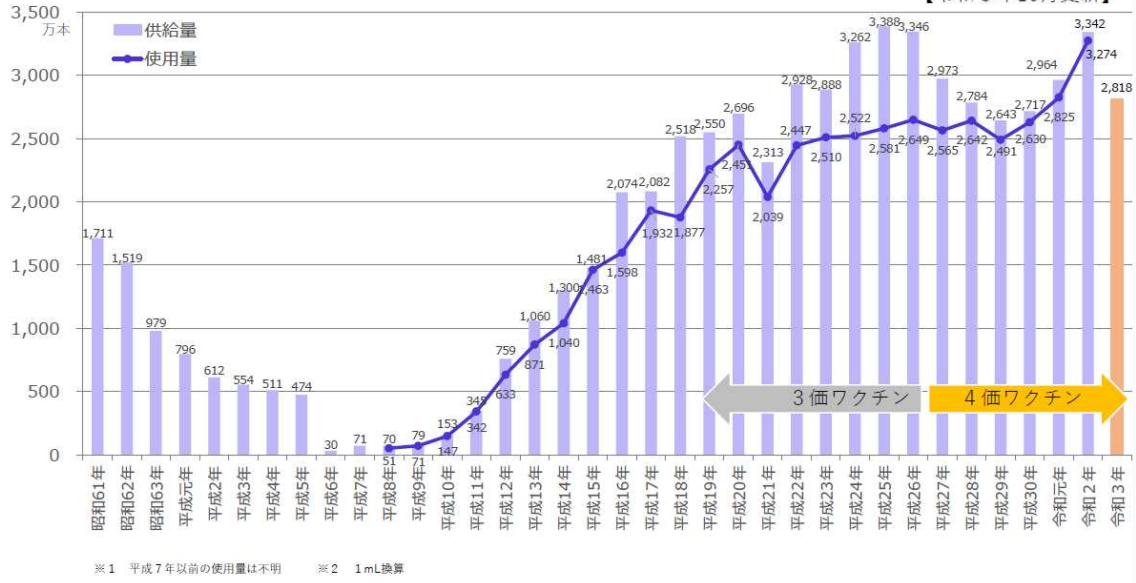
日本では、新型コロナワクチンを接種する際、他のワクチンと前後 2 週間以上の間隔を空ける必要があります。柏崎市では、12-14 歳のコロナワクチンを 10 月上旬から開始しています。インフルエンザワクチン予約の際は、コロナワクチン接種日との間隔にご留意ください。

世界保健機関は、インフルエンザワクチンの用法について、9 歳以上の小児及び健康成人に対しては「1 回注射」が適切である旨の見解が示されています。日本でも 13 歳以上の者が接種を受ける際は、医師が特に必要と認める場合を除き、「1 回注射」が原則です。9 歳以上では インフルエンザワクチンは 1 回のみという考え方も広まってきています。

2021/22シーズンのインフルエンザワクチンの供給量の見込み 別紙 1

- 今年度のインフルエンザワクチンは、製造効率等が特に良かった昨年度とは異なり、例年と同程度の製造効率等である。
- 平成8年以降で最大となった昨年の使用量と比較すると少ないが、例年の使用量に相当する程度は供給される見込み。

【令和3年10月更新】



※1 平成7年以前の使用量は不明 ※2 1mL換算

2021/22シーズンにおけるインフルエンザワクチンの供給 (週次) 別紙 2

【令和3年10月更新】

